

# 鹿浜の人々の信仰を伝える

所在地：鹿浜 5-7 (路傍)



## 供養塔 三基



- 【左】 普門品供養塔 寛政8年(1796)  
【中】 地藏菩薩供養塔 享保17年(1732) 天保13年(1842)再建  
【右】 拝礼供養塔 天保5年(1834)

区立江北公園前交差点から南に100メートル程歩いていくと、路傍に3基の供養塔が見えてきます。これらは江戸時代の鹿浜の信仰をうかがえる貴重な文化財です。



### ■ 普門品供養塔 (写真左)

普門品は「法華経」の一章で、観世音菩薩の衆生救済を説いています。

右側面に千住や川口等への距離が刻まれており、道標も兼ねていました。村尾嘉陵という人物が書いた日帰りの紀行文『江戸近郊道しるべ』(文政12・1829年成立)にも掲載されています。今から200年程前に村尾が見た文字は今も見ることができます。

### ■ 地藏菩薩供養塔 (写真中央)

地藏菩薩は、大地のように広大な慈悲で生あるものすべてを救うといわれ、子どもの守り仏ともされ、赤子を抱いています。

### ■ 拝礼供養塔

拝礼供養塔は、日本各地の霊場・霊山をめぐる記念にたてられるものです。出羽三山・西国三十三ヶ所や富士山などの文字が正面に刻まれており、鹿浜村の人々が全国各地へ参詣に訪れていたことがわかります。